

うたごよみ

曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳 氏



さくら (旧岩北駅前)

俳句

末吉俳句会

春水の音なく走る城址かな

川崎 多恵子

春雷や木の芽つんつんとがらせて

小野 明日香

もてなしはまだ整はぬ初音より

前原 梯子

大隅俳句会

鼓草駐車場にも増えてをり

岩重 みどり

色生まれ日差しにまろき新芽かな

吉川 ツミ

足元に光る宝石犬ふぐり

川崎 綾子

短歌

末吉山茶花短歌会

購える節分の豆撒かざるは吾に
棲む鬼愛しかるゆえ

西 昌子

春宵の茶の間に恵方の寿司にぎ
り暫し黙して吾娘と食みおり

松崎 さちえ

鬼やらいの声聞こえぬか闇深き
窓辺に寄りて唄つぶやく

福宿 みち子

大隅短歌会

春浅き庭に明り点すごとうす
くれないの梅は満開

吉崎 フサ子

朝の日は高き木立をぬけて来て
水仙の芽を光でつつむ

川田 サダ子

忍び寄る老いを定めと受け止め
て残りの人生気楽に生きん

入来 レイ子

財部短歌会

七十年わがま、勝手の生き様なり
わからぬま、にあ、誤てり

祝迫 道雄

ひな人形戦乱の世を生き残りまな
ざしあつく武家の屋敷に

井上 澄子

門口を明るく為せる岩躑躅訪のふ
人等感嘆の声頻り

瀬戸口 芳子

咲きはこる椿に群がる小鳥らの躍
動みなぎる春光の中

杉村 リカ

一人居の病のつらさ身にしてみて二
人の娘に引かれ名古屋へと行く

橋口 貞男

薩摩狂(郷)句

にがごい会末吉支部

見事ち野菜 何処ん生産から
確かめつ

田代 勝泉

高価野菜ち 作つみたどん

虫が食つ 南川 句句

出せた野菜 計算が合わん

無人店 鈴木 一泉

大隅薩摩狂句会

おい言たや まこち恥なか
人間違つげ

山田 竜生

母どんの 容姿な似合わん
ずん垂れ子

新屋 涼子

焼き鳥屋 煙の匂で

人が寄つ 太良木 五徳